

令和6年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名： 保健推進課

シート No.： 13-1 作成日： 2025.5/1

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後 期 基 本 計 画	施策の大綱	Ⅱ 保健・医療・福祉の充実	事務事業の背景・目的	事務事業の目標
	施策の目標	1 生涯にわたり市民の健康を守り、育む	特定健康診査を受けることで、自分の健康状態を知り、健康への意識改革を行うほか、生活習慣病の早期発見や予防活動に取り組むことで、自立した生活を継続すること及び医療費の適正化を目的とします。	特定健診受診率について、令和 4 年度は 36.9%、令和 5 年度は 36.5%であり、茨城県平均の 37.3%を下回り、未受診者対策が重要となっています。令和 5 年度特定保健指導実施率についても 29.3%と、茨城県平均 33.6%を下回りました。令和 6 年度から健診当日の初回面接を開始し、早期介入をして行動変容を促すように工夫しました。引き続き、特定保健指導実施率 33%以上を目標にしています。
	施策	1 保健		
	施策内容	健康づくりの推進		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	高齢者の医療の確保に関する法律、データヘルス計画、特定健診等実施計画、健康プランじょうそう		
事務事業名		特定健康診査等事業		

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R6 予算額	R6 決算額
活動名・事業名 （対象年）	R6 活動・事業内容	指標（単位）	R6 目標値	R7 目標値		
			R6 実績値	R8 目標値		
特定健康診査 （集団検診） （R6・7・8）	40歳～74歳の国民健康保険被保険者の特定健康診査	受診者（人）	2,300	2,000	27,129 千円	20,806 千円
			2,197	1,900		
特定健康診査 （医療機関） （R6・7・8）	40歳～74歳の国民健康保険被保険者の、医療機関における特定健康診査	受診者（人）	160	160	2,737 千円	2,037 千円
			204	160		
特定健康診査 （人間ドック） （R6・7・8）	40歳～74歳の国民健康保険被保険者の人間ドック	受診者（人）	840	840	18,000 千円	16,360 千円
			818	840		
特定健康診査 （脳ドック） （R6・7・8）	40歳～74歳の国民健康保険被保険者の脳ドック（隔年）	受診者（人）	60	60	2,700 千円	1,980 千円
			66	60		
特定保健指導 （R6・7・8）	40歳～74歳の国民健康保険被保険者で、腹囲、BMI、血液検査（血糖、脂質、血圧）、喫煙歴等が基準に該当した者へ、生活習慣改善のための保健指導を行う。	受診者（人）	148	148	754 千円	182 千円
			134	147		
プレメタボ健診 （R6・7・8）	37歳～39歳の国民健康保険被保険者の健康診査（問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、血液検査、尿検査、眼底検査、心電図）	受診者（人）	60	60	528 千円	334 千円
			38	60		
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R6 実績値
特定健康診査受診者数	3,360 人	3,285 人
特定健康診査受診率 （法定報告）	35.0%	36.1% （法定報告はR7年11月頃確定予定）
特定保健指導実施率 （法定報告）	33.0%	45.9% （法定報告はR7年11月頃確定予定）
プレメタボ健診受診者数	60 人	38 人

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
ナッジ（人の心理に働きかけ、行動に向けて後押しする工夫）理論を活用した勧奨通知により、受診勧奨や健診の情報提供を行いました。また、SNSを活用し、検診の空き状況をお知らせし予約センターだけでなく、市の窓口でも積極的に予約受付を行いました。	☐ コスト	☒ 活動	☐ 成果	☐ その他
	今後の方向性			
	ナッジ理論等を活用した勧奨ハガキなどを活用して健診の必要性を周知するとともに、特定健康診査未受診者へ受診勧奨を行います。 また、日頃からの健康の意識づけを推進するとともに、集団検診による特定健診の受診勧奨や、医療機関特定健診及びドック検診に関する情報を周知していき、現状の契約医療機関数を維持し、健診を受けやすい体制構築に取り組んでいきます。			